

2023年度 日本工学院専門学校											
デザイン科 プロダクトデザイン専攻											
デザイン論 4											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	内田 祐生			実務 経験	有	職種	ディレクター、デザイナー				
担当教員紹介											
DTP制作会社、雑誌出版社編集部を経て、1999年デザイン事務所を開業し、デザインのディレクションや制作、執筆活動を行っている。 また、紙媒体・Web媒体を問わず、企業向けのインストラクターやデザイン教育の講師も務める。											
授業概要											
この授業では、デザイナーまたは一社会人として、どのように知的財産権と向き合うかを学んでいく。また、デザイナーとして向き合うことになるメディア（インターネットメディア、テレビ等のマスメディア）と向き合うことを様々な事例を通して、それらの「読み取り方」を身につけることを目的とする。											
到達目標											
メディアの役割について、聴講および数人によるディスカッションを経て、自分自身の考えを言語化して、口頭発表できるようになる。著作権など法律が定められている内容について、理解し、必要な事柄の調べ方の技術を身につけて、自身の創作・デザイン活動に役立てることができるようになるのが目標である。											
授業方法											
授業では、メディアのリテラシー（読み取り方）について事例をみて学び、ビジネス著作権検定公式テキストを用いて法律について授業を行う。授業では、教員の講義を聴講すると共に、テーマに沿った内容についてディスカッションをしばし行う。											
成績評価方法											
試験・レポート ワーク・小テスト 平常点	60% 30% 10%	レポート・試験・課題を総合的に評価する 授業内容の理解度を確認するために実施する 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
必要な資料は各回用意するが、聴講内容やディスカッションでの内容をしっかりと記録すること。授業時数の 4 分の 3 以上出席しない者は期末試験と評価を受けることができない。期末試験において60点未満の場合は再試験となる。											
教科書教材											
教科書:ビジネス著作権検定公式テキスト 参考資料等は、授業中に配布する。											
回数	授業計画										
第1回	オリエンテーション / 授業の目的とスケジュール、また「メディアリテラシー」の意味と効果を理解する										
第2回	リテラシーについて① / マスメディアとして新聞について、その特性と変遷について理解する										
第3回	リテラシー② / ラジオについてマスメディアとしてラジオについて、その特性と変遷について理解する										
第4回	リテラシー③ / テレビについてマスメディアとしてテレビについて、その特性と変遷について理解する										
第5回	リテラシー④ / SNSについてFacebookやTwitter等のSNSについて、各メディアの特性と課題について議論し、自論をまとめる										

2023年度 日本工学院専門学校	
デザイン科 プロダクトデザイン専攻	
デザイン論4	
第6回	リテラシー⑤ / 動画サイトについて増加するネット動画メディアについて、各メディアの特性と課題について議論し、自論をまとめる
第7回	リテラシー⑥ / 広告について新聞からネットまで、各メディアにおける広告表現の特性について議論し、自論をまとめる
第8回	知的財産権① / 知的財産権とは権利侵害の事例を通じて、知的財産権の必要性和デザイナーの役割について理解する
第9回	知的財産権② / 著作権(1)著作物の定義と、著作権法が定義する内容について理解する
第10回	知的財産権③ / 著作権(2)既存かつ保護期間内の著作物を使った創造的な表現のあり方について議論し、自論をまとめる
第11回	知的財産権④ / 著作権(3)デザイナーの一般的な仕事から生まれた作品を通して、著作物の使用の可否について理解する
第12回	知的財産権⑤ / 意匠権産業財産権としての意匠権の役割と、意匠法が定義する内容について理解する
第13回	知的財産権⑥ / 商標権産業財産権としての商標権の役割と、商標法が定義する内容について理解する
第14回	知的財産権⑦ / 知的財産権まとめある製品を通して権利登録と、権利侵害のシュミレーションを行い、実践的な方法を理解する
第15回	知的財産権⑧ / デザインとオリジナリティオリジナリティのある知的財産物がどのように生まれるのかを事例を通して理解する